

青年会議所の皆さんと議員の問答の内容

質問 1

指宿市の観光資源（砂むし温泉等）を、さらに活用するための新しい取組はありますか。

答弁 1

観光庁の地域観光魅力向上事業で、事業費 1110 万円を活用して、砂むし温泉と絶景露天風呂を含む指宿ウェルネスプレミア～地球の息吹に触れ、自分を取り戻す旅～を実施します。これは、砂むし温泉とスメを使った体験事業で、2泊3日のモニターツアーを行うものです。

SNSを活用して、山川砂むし温泉砂湯里の情報を発信をしております。

トロピカルグルメ事業の一環として、令和7年7月19日から9月30日まで、市内11店舗でスタンプラリーを実施しております。

また、指宿商工会議所が、春のグルメまつりを、令和7年2月1日から3月末まで実施しました。大変好評で4月15日まで延長しました。場所は山川町漁協水揚げ場で実施しました。秋には、イセエビやカキ、カツオなど、地元の旬の魚介類を使用した秋のグルメ祭りを9月6日から10月末まで指宿港で開催します。

さらには、令和7年度当初予算の主なものとして、指宿市観光・経済戦略会議負担金として3,900万円、いぶすき観光デザイン負担金として6,631万1千円、新しい地域経済・生活環境創生交付金という国の交付金も活用して、いろんなことをやっております。専門家と連携して、食と体験の磨き上げのほか、SNS等を活用をした国内外への情報発信という事業も取り組んでおります。

質問 2

外国人観光客の受入れ体制（多言語案内やキャッシュレス対応）を、どのように強化する計画でしょうか。

答弁 2

令和6年度に市内21か所の観光案内の翻訳を改定しております。令和7年度は、7カ所の指宿まるごと博物館の案内板も改めることになっております。

韓国語版と中国語版の外国人観光客向けのパンフレットを5,000部作成します。英語版は令和6年度に作成済みです。いぶスキップMAPも作成しております。

キャッシュレス化については、各事業所に委ねているため、市では対応してないということです。指宿市の公共施設では、道の駅やそうめん流しは、キャッシュレス化をしております。

このほか、令和6年度から市内事業者へG o o g l e ビジネスプロフィールの取扱い説明を実施しており、令和7年度は、そのデータの取り扱いについて担当課で指導する計画です。

さらには、令和7年度当初予算の主なものとして、観光費の観光コンシェルジュ設置事業で事業費 662 万 7 千円、インバウンド対策として、観光客が周遊しやすい環境を整備するため、指宿駅構内に観光案内のための観光コンシェルジュを設置しております。外国人観光客受け入れ体制整備費助成事業補助金として事業費を 40 万円、市内の宿泊施設、観光施設に観光客が行くような政策をする費用を準備しております。

観光施設管理事業として、市内Wi-Fi スポット管理事業をしており、外国人観光客が、スマートフォンを使い、観光地をしっかりと巡ることができるような事業をしております。

質問3

市内の保育園・幼稚園の待機児童の状況と、その解消策はありますか。

答弁3

子どもの数の減少とともに、保育園等の利用を希望する子どもの数も減少しており、市内全体の保育園利用率は 85% 程度となっており、空きがある状態であることから待機児童は発生していません。

質問4

学校のICT化タブレット配布、Wi-Fi 環境はどの程度進んでいますか。

答弁4

児童生徒等への情報端末の整備状況については、国のG I G Aスクール構想に基づき、令和3年度に1人1台を整備しております。

小学校では、iPad 整備後5年が経過することから、令和8年度に国の二次G I G Aスクール構想に基づいた更新を計画中であります。

中学校では、令和3年度に整備しておりますが、端末の基本ソフトであるWindows 10 のサポートが終了することを踏まえ、整備後5年を経過していません

が、令和7年度において、国の二次G I G Aスクール構想に基づき、i P a dへの更新を計画中であります。生徒用1,075台、指導者用98台に加えて予備機も整備するそうです。

小中学校のW i – F i環境整備状況ですが、平成29年度から平成31年にかけて全小中学校にW i – F i等の情報通信ネットワークを整備しております。令和6年度から令和8年度にかけて全小中学校の通信機器の更新等による再整備を進める計画としております。

また、小中学校の情報端末は、公立学校情報機器整備事業計画、端末整備更新計画、ネットワーク整備計画に基づき、1人1台端末の利用活用に取り組んでおります。

また、タブレットの配布については、我々市議会議員としては、各小中学生に持ち帰って利用してもらうようにとお願いしておりますが、まだ各学校の状況については、時々持ち帰るという学校が多いようです。小学校は持ち帰りが進んでいますが、中学校はネットトラブルなどによる不安があり、なかなか進めないところがあるようです。

教育委員会としては、管理職研修会等で、できるだけ児童生徒に端末を持ち帰ってもらい、学習の補助をしてもらいたいということで、文房具と同じような形で使用することを推奨しております。

また、指宿商業高等学校の状況ですが、i P a d 195台を整備しております。教師用35台、生徒用160台を学校内で活用しており、持ち帰りはしていないようです。令和7年度中に200台を更新予定で、W i n d o w sの端末です。

このほか、指宿商業高校では、パソコン183台を整備しており、ネット環境は、令和2年度に整備済みで、令和8年度以降に更新予定であります。

質問5

子どもの遊び場や放課後施設の整備に関する新しい計画はありますか。

答弁5

令和6年度にヘルシーランド内に整備を進めています。

雨の日も安全安心な全天候型の遊び場が、今年10月末にオープンする予定となっております。

多くの方にご利用頂けるよう、情報発信に努めてまいります。

放課後施設については、放課後児童クラブ(以下クラブという)を所管しておりますが、現在、新たな施設整備の計画はありません。

近年のクラブ整備事業状況として、令和3年度に2か所を整備し、保育所等3施設にクラブの新設業務委託を行っております。令和6年度には、認定こども園2施設にクラブの新設業務委託を行うなどして、受皿の確保に努めており、現

在、公設運営 2 クラブを含め、市の委託事業として 16 クラブ、保育所等の自主事業として 5 クラブの計 21 クラブが運営されております。

今後、保護者等ニーズや放課後の過ごし方についての実態調査を行い、整備の必要性について検討を行います。

質問 6

医療体制を強化するための取組はありますか。

答弁 6

医師会への事業委託により、夜間休日でも医療機関を受診できる体制を構築しております。

また、ドクターへリの運航に際し、県内 31 市町村間で相互応援協定を結び、また、県も九州全体の連携をしていただいているようです。大分からもヘリが飛んできたという報告を受けておりまして、重症化の皆さんであったり、救命率の向上につなげております。

さらに、地元で安心して出産することができる体制を維持するため、鹿児島大学病院へ寄付講座を設置しており、成果の還元として指宿医療センターへ産婦人科医の派遣を受けております。

質問 7

介護人材不足に対する支援策はありますか。

答弁 7

本市における今後の人ロ推移については、人口減少とともに、生産年齢人口も減少し、高齢化率は増加していくことが見込まれております。

このような中、介護保険制度を持続可能なものとするため、介護人材の確保や、定着が大きな課題となっております。

市の人材確保の取組として、高校生向けの地元企業ガイダンスやいぶすき魅力発見！J o b ツアーに、介護事業者も参加していただいており、介護職の魅力発信の場として活用されていることを確認しております。

介護職への定着を図るための環境整備に関しては、4 月に開催された県市長会において、国が定める介護報酬の見直しによる賃金水準の底上げや、業務に必要な資格の更新時に負担となっている費用と研修期間の見直し等について、国へ要望書を提出したことを確認しております。

質問8

道路や歩道の老朽化対策は、計画的に進んでいるのでしょうか。

答弁8

市民からの要望に基づき年次的に整備しています。

要望は年々増えており、これまでの要望件数は120件で、平均すると年6件程度の要望があり、細かい補修は、一般財団法人指宿温泉まちづくり公社が随時対応しています。

橋梁については、年次的に整備しています。

令和7年度当初予算の主なものとして、道路新設改良費は3億2,158万円であり、改良工事16路線、測量12路線、用地買収2路線、他2路線の計32路線を計画しています。令和6年度当初予算は、合計22路線で2億3,931万5千円であり、9,000万円程度増えています。

また、道路維持費は1億3,869万8千円であり、交通安全対策工事、防護柵や区画線、その他道路の補修などを委託によって実施しています。令和6年度当初予算は、1億3,513万2千円でした。

質問9

JR指宿枕崎線の利用促進や存続に関する取組についてはどうなっているか。

答弁9

指宿枕崎線沿線の4市、鹿児島市、指宿市、南九州市、枕崎市で期成会を組織しており、市長及び市議会議長が会員となっております。指宿枕崎線の輸送力の増強並びに営業改善を促進し、鉄道体系の強化を図り、地域住民の福祉の向上と沿線市の画期的な発展に資することを目的に活動を行っています。実際の活動としては、JR九州本社や鹿児島支社への要望活動に取り組んでおり、直近では、令和6年度にJR本社への要望、鹿児島支社への要望・意見交換会、そして指宿枕崎線のシンポジウムを行っております。

この要望時に、沿線高校や指宿商工会議所、観光協会等からの要望を取りまとめた要望書を提出し、意見交換を行っております。

次に、県において、指宿枕崎線の将来のあり方に関する検討会議を、令和6年度に開催しております。これは存続廃止を前提としたものではなく、この沿線の魅力や価値、指宿枕崎線の生かし方について議論を深めていくこととしていま

す。主な会議の内容として、令和7年度以降は、地域の可能性や方向性について、地域の方々を交えて、それぞれの意見を集約しながら、指宿枕崎沿線の評価方法や経済価値を高めるための取組を磨き上げ、そして今後、地域として稼いでいくために必要な実証実験を行っていくということになっております。

さまざまな利用促進の取組について、幾つか紹介します。駅構内において観光コンシェルジュの設置をしており、多言語に対応できる方がいます。このほか、デジタルサイネージ観光案内の設置、デジタルマップの作成、指宿駅や西大山駅におけるレンタサイクルの設置、これは輸送力向上のために取り組んでおります。また、1日乗り放題切符を準備しまして1日千円で乗れる利用促進の取組をしています。乗降客数も増えるのかなと思っています。ぜひ利用していただきたいと思います。

この指宿枕崎線は、輸送密度が1日240人、赤字額は2023年で4億6,000万円程度となっております。今、赤字額より重要視されてるのは、この輸送密度の問題であり、これをどのように高めていくか、守っていくかというところに重点を置いていく必要があると思っております。

そのためには、私たちも市民も一緒になって、この指宿枕崎線の存在価値、利用価値を高めるための議論を進めていく必要があると思っております。

質問10

指宿市の人口減少対策の中で、若者の定住を促す新しい施策はありますか。

答弁10

若者がこの指宿で働き結婚し、子どもを産み育てるための環境づくりや、人口が流出しないための対策、郷土を愛する気持ちを育てる取り組みなどが必要だと感じています。

その中で、若者に限らず、今年度から域内経済循環促進事業という補助事業を創設いたしました。これは、地域食材を生かしたメニュー開発やアートや文化活動などを駆使したイベントなどに幅広く活用できるものです。起業を考えている方々へのチャレンジ精神の後押しとなる施策だと思います。

また、若者の市内の事業所等への就職を促進するため、平成28年度から高校生を対象とした地元企業ガイダンスと、令和4年度からいぶすき魅力発見！J o bツアーや二つの事業に取り組んでおります。地元企業ガイダンスでは、学年末となる3月に、指宿商業高校、山川高等学校、指宿特別支援学校、頴娃高等学校の2年生全員が一堂に会し、市内参加企業が仕事内容や求める人材について直接説明する機会を設けております。また、いぶすき魅力発見！J o bツアーやでは、3月のガイダンスに参加した生徒が3年生となり、進路選択を迫られる6月に実際

に事業所を訪問し、施設や職場の雰囲気を見て感じていただくことで、市内の事業所で働くイメージをしやすくなるような機会を設けています。

いずれの取組も、若者が指宿市内で就職し指宿市内で暮らしていくこと、また、事業所が抱える人手不足対策になることを期待して取り組んでいます。実際に昨年度は、県外に就職を希望した生徒が数名なんすけれども、この取組を通して地元企業に就職した例もあり、地道な活動ではありますが成果が見えてきております。

また、市内の小中学校では、ふるさと指宿に誇りを持ち、未来の指宿を担う子どもたちを育成するため、指宿の歴史や伝統文化、自然等について学ぶ「いぶ好きふるさと学」を総合的な学習の時間などで行ったり、道徳の中で郷土を愛する態度を育成する内容を取り扱っています。

「いぶ好きふるさと学」では、地域住民や各種団体の協力を得ながら、開聞岳登山や漁業体験、伝統芸能の継承活動など、各校区の特色を生かした学習が行われており、それらの学習を通して、子どもたちに本市の魅力を体感させるとともに、地域の方々とさまざまな関係を持ち、協働することで、地域社会の一員としての公共性を身につけることもできると考えています。

また、児童生徒に子どもの頃から本市の魅力を体感できる活動に参加してもらうことで、将来的に本市を自慢できる成人の育成を目指すことを目的として、指宿を自慢できる子どもづくり実行委員会を設立し、令和5年度は、市内の小中学生、高校生を対象として、開聞岳登山を実施しています。

このような取組は、若者の定住につながる即効性はないかもしれません、この小さな体験の積み重ねが子どもたちの心に学習され、いずれ必ず指宿を支えてくれるようになると思います。

このほかにも、子どもを産み育てる環境づくりとして、今年度から市役所にこども課を新設し、出産から子育てに関する切れ目ない支援の充実を図っております。

最後に、人口減少対策として、移住定住について少しお話しいたします。

移住と聞くと皆さん、どういう方が移住してくると思いますか。

私は、定年退職した、ちょっと悠々自適な方がこの指宿で温泉を楽しみ、暖かい指宿で、残りの人生を楽しむという方が多いと思っていました。皆さん、高齢の方が移住してくるイメージをお持ちかと思いますが、50代以下の方々が、令和5年度、6年度の2年間で171名移住してきているんです。年齢年代別でいうと、30代、40代世帯が全体の63.7%，20代を合わせると74.1%で、10代以下の子どもたちが50人いるんです。市内の小学校一つに匹敵するくらいの方々が、この2年間で移住していただいております。

こうした方々も、指宿市の将来を支えていく大きな力となるであろうと期待しております。

今年度は60世帯、150人を目指していますが、指宿市がこのように、移住者が増えた背景として、令和5年4月に、企画政策課地域創造係を創設したことも大きな要因だと考えます。

このように、行政としても、若者の定住に向けた施策は講じていますが、それだけでは限界があります。やはり1番大切なのは、指宿で生きたい、指宿で何かをやってみたいと思えるような魅力ある地域の空気や雰囲気です。

その意味では、地域の担い手として、青年会議所の皆さまが若者にとって面白そうで関わりたいと思えるようなプロジェクトを企画実践されることは、まさに定住促進の大きな力になるのではないかと感じております。

ぜひ、行政と並走しながら、青年会議所の皆さまならではの創意工夫や柔軟な発想で地域にワクワクを生み出していただければと期待しております。